

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②評価調査者研修修了番号

sk18087

神機構-82

神機構-813

③施設名等

名称：	子どもの園
施設長氏名：	和田 直熙
定員：	39名
所在地(都道府県)：	神奈川県
所在地(市町村以下)：	
T E L：	
U R L：	
【施設の概要】	
開設年月日	1971/6/3
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人福光会
職員数 常勤職員：	23名
職員数 非常勤職員：	5名
有資格職員の名称（ア）	児童指導員
上記有資格職員の人数：	3名
有資格職員の名称（イ）	保育士
上記有資格職員の人数：	11名
有資格職員の名称（ウ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（エ）	調理員
上記有資格職員の人数：	4名
有資格職員の名称（オ）	
上記有資格職員の人数：	
有資格職員の名称（カ）	
上記有資格職員の人数：	
施設設備の概要（ア）居室数：	4ユニット
施設設備の概要（イ）設備等：	静養室、多目的室、学習室、心理室、親子支援室、自立訓練室、
施設設備の概要（ウ）：	実習室、international room
施設設備の概要（エ）：	

④理念・基本方針

- ・「共に住もう」
- ・「人はただ生きるのではなく、よく生きることをもっと大切にしなければならない」

⑤施設の特徴的な取組

○「共に住もう」の理念の下、様々な事情を背景に持つ子どもたちに対して、職員は子ども一人ひとりと丁寧に関わりながら、ひとつの家族として寝食を共にして、生活を送っている。

○年度初めに、園の理念や養育・支援のありかたを「インサイドオリエンテーション（こどもの園ガイドメテエ）」の冊子にまとめ、園長が全職員に説明している。今年度は、4～5月に「人権シリーズ」として、子どもや職員の人権について、研修会を6回開催し、重点課題として取り組んでいる。現在、高校生のスマホ使用に向けて、「ルールブック」作りに取り組んでいる。

○職員は子どもたちと毎日よく遊び、悩みや苦しみをよく聴き、「よく生きることについて」生活の中で伝えている。職員の思いを受け、子どもたちは安心して落ち着いた生活を送っている。職員は常に向上心を持ち、学ぶ姿勢を持ちながら、子どもたちの養育・支援に関わっている。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2020/5/15
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2021/11/8
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成29年度

⑦総評

○1971年設立の歴史のある園で、数年前より取り組んでいた園舎の建て替えも終わり、個室を中心にした4つのホームがある。近隣では分園型の小規模グループケアを行っている。新しい園舎には「木」を多く使用して、温かみのある建物としている。また、卒園した子どもたちがいつでも気軽に訪れ、宿泊できる「帰る家」を備えている。複雑な課題を抱えている子どもへの対応などで課題があり、人材の確保も必要なことから、現在、1ホームの運営を休止している。毎日の連絡会や、月3～4回開催する職員会議にて、時間をかけて職員間で意見交換や、養育・支援についての検討、見直しを行い、4つのホームを運営できるよう努めている。

○各ホームには、リーダー及びサブリーダーの子どもがおり、ホーム内での生活ルールや、余暇の過ごし方など、ホーム内の生活を、子どもたちが話し合いで決めている。また、リーダー会やサブリーダー会での話し合いで、園全体の行事などを決め、自分たちでできることを考え楽しんでいる。余暇時間は、子どもたちがそれぞれ、園庭でバスケットや自転車、畑の手入れなど自由に行い、遊んでいる。

○各ホームに、担当保育士と一緒に住んでおり、いつでも相談できる環境を整えている。担当保育士は女性だが、男性の児童指導員も配置し、誰にでも相談できる体制がある。相談は待つのではなく、子どもの様子を注視して、細かなサインをキャッチし、子どもが相談しやすい状況を作るようにしている。毎日、子どもたちがその日を振り返る時間を設け、進行も当番制にして、皆が意見を述べるができるよう配慮している。

○自治会主催の盆踊りや、子ども会行事には、職員が付き添い、子どもたちが積極的に参加している。自治会の行事には、園のマイクロバスを貸し出したり、運転の手伝いしている。新型コロナウイルス蔓延後は計画的に開催できていないが、地域に向けてバザーを開催したり、卒園生や元職員を招いた「ひまわり会」を開催している。

○コロナ禍により、食事は各ホームで摂っている。献立は栄養士が作成している。1年を通して「日本丸かじり」として、各県の郷土料理を楽しんだり、「まんがめし」として、子どもたちの好きなまんがに出てくる献立を取り入れて楽しんでいる。おやつは各ホームで子どもたちと考え、手作りや市販の食べたいものを準備している。

○心理士は、週1回の非常勤勤務だが、以前園の職員として勤務していた経験があり、園のことをよく理解して関わっている。専用の部屋を設け、子どもに合った療法を行っている。また、子どもたちの生活に即した心理療法を行っている。職員も心が疲弊してしまうことがあり、心理士に相談を受けている。また、ベテランの児童指導員がスーパーバイザーとして、職員に関わっている。

○子どもたちの基礎学力を高め、学習の習慣付けのため、毎日公文式学習を行っている。その他、自由に使用できる学習室を設けている。中・高生は、個室の自室で、夜間、落ち着いて勉強している。中学生は全員が高校受験を希望し、塾に通ったり、学習ボランティアの協力を得ている。高校受験に際しては、卒業後どうするかを、子どもと一緒に先を見越して考えていくようにしている。

○卒園後は、ケース担当やホーム担当職員が本人と連絡を取り、その後の生活の様子を把握している。何か困ったときなど、電話を掛けてくる子どもが多い。成人式には、園で着物を着せてもらい参加するなど、卒園しても園に来ることが多い。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

①理念がよく捉えられていると思います。②2020年度はコロナ禍拡大という中で、人の行動が制限される中で現前化した課題、従前からの話題、価値観の多様化と社会の枠組みの崩壊変化は、時代が変わったでは解決の見通しは立たないことだろう。個々の多様多元な状態像の差異の認識は進んだと思うが社会学的な人間（じん・かん＝和辻哲郎）の孤立、取り組んでも取り組んでも出口が見出せない無力感、閉塞感、交誼交換・困惑と苦悶情報制約はわずかな情報を元にした歪みと誇大化に苦悶、これは私の養育のあり方の故かもしれないとってしまう施設職員の業というか性というか、この苦悶によく耐えた様子から、個々の課題の多様化多元化をこなすにはまだまだと学び考える必要を感じている。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者評価結果
<p>①</p> <p>1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

【コメント】

新任職員に対し、園の理念や基本方針を丁寧に説明し、パンフレットを配布している。また、日々の連絡会や、月3～4回開催する職員会議の場で、全職員に周知している。年度初めの職員会議の場では、毎年、園長が「インサイドオリエンテーション」の冊子を作成し、全職員を対象にして、内容を説明している。今年度は4～5月に、子どもの人権を中心に、6回開催している。事務所会や男性指導員会など各種会議を定期的で開催し、園のビジョンを認識する機会を多く設けているが、職員によって子どもの捉え方など異なることがあり、ベテラン職員から個別にかみ砕いて説明している。保護者には子どもの入所時に、子どもたちには園長が年度初めや誕生会の場で、園のあり方を話している。

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。 <input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	b
【コメント】 全国児童養護施設協議会や、神奈川県児童福祉施設協議会の調査研究の内容を、職員会議の場で、資料を揃え、また園独自の視点も交えて、園長が全職員に伝えている。園の生活を踏まえた言葉を加えて説明しているが、内容によって、職員のとらえ方も異なるため、主任児童指導員が個別に再度、フォローするようにしている。状況の的確な把握、分析は難しい面もあるが、起こったことの優劣、○×を決める「評価」ではなく、どうしてそうだったかを皆が意見を出し合い、共有し、考えていく「認識」を大切にするよう心がけている。		
②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。 <input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。 <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。 <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。 <input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	b
【コメント】 経営に関する諸問題については、理事会の場などで役員間で内容を共有しているが、職員に周知することはあまりない。全国児童養護施設協議会や、神奈川県児童福祉施設協議会の調査研究や文献、話題には、留意するようにしている。養育・支援の場では、課題や問題を職員がどこまで共有できるかがポイントと捉えている。働き方改革として、通いの職員を配置している。		

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。 <input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。 <input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。 <input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。 <input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	b ○ ○ ○

【コメント】

中・長期のビジョンや目標は明確にしているが、数値は示していない。また、具体的な成果は見え難いことがある。中・長期ビジョンは、国の新しいビジョンを受けて、再整備する必要があると考えている。養育・支援の場で、子どもの希望に対して対応方法の違いがあることから、職員会議の場などを通して、職員の育成や働き方、ビジョンの再整備などを話し合っている。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	

【コメント】

長期計画として具体的なものは出しにくく、それを即、単年度に反映していくことは難しいと感じている。事業計画は、行事の予定の確認作業だけにならないよう、年度途中の変更も必要であり、毎月の職員会議の場で内容を確認している。経営と現場の運営は葛藤が生じることもあり、主任児童指導員がパイプ役となり、どのように溝を埋めるかが大切と考えている。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	

【コメント】

事業計画は、「社会事業計画」として園長が策定し、新年度の職員会議で「インサイドオリエンテーション」とともに、職員に内容を示している。子どもたちの養育・支援に関することは、職員会議で話し合いを行い、年間の実施計画を策定している。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

小学5年生以上の子どもは、平日は毎日21時より「振り返りの場」があり、日々の生活に関することが中心になるが、適宜、計画の内容を伝えている。それ以下の小さい子どもには、「振り返りの場」の前の時間や翌日に、必要な事柄を伝えている。保護者には、来園時や電話で伝えることもあるが、保護者全体に事業計画の内容を伝えることは行っていない。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

第三者
評価結果

①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	

【コメント】

昨年度より、コロナ禍の影響があり、子どもたちの在園時間も長く、園内研修や外部研修の参加が計画通り実施できなかった。特に、園の理念などを伝える新人研修が中止になり、新人職員の啓発に時間をとることができなかった。ガイドやマニュアル、文献、最近の研究レポートなどを職員に渡してきたが、どこまで質の向上に取り組むことができたかは疑問である。今年度は昨年度できなかった部分を補い、立て直しを図って、外部研修もズーム研修などを取り入れている。新人職員に対しては、会議などの時間を増やし、園の思いを伝える時間を多く作るようにしている。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【コメント】

第三者評価を定期的に受審し、自己評価も全職員で取り組んでいる。複雑な課題を抱える子どもたちに対して、年度末の職員会議の場などで、子どもの自立支援計画の見直しを行っている。事業的な部分については、なかなか計画を立てて当たることが難しいが、養育・支援の部分については、職員が連携し、共通認識の下で、子どもたちに対応するように取り組んでいる。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1)	施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【コメント】

年度初めに、園長より「インサイドオリエンテーション」を行い、最終的な責任は園長にあることを伝えている。ただし、養育・支援のあり方について、指示などは行わず、職員自ら考えるきっかけ作りの言葉を伝えている。職員会議の場では、園長が最後にコメントし、日々の連絡会では、スーパーバイザー的な役割を担っている。夏季キャンプなどの経験を経ている職員が多く、指揮系統を立ち上げることはできているが、中核を担う職員が増えていかない現実があり、分担も偏りがちと感じている。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
---	---------------------------------	---

<input type="checkbox"/>	施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	
<input type="checkbox"/>	施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	
<input type="checkbox"/>	施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	

【コメント】

県内の施設長会などの集りで、遵守すべき法令などを理解し、児童福祉法の改正や虐待に関する資料などを職員に配布して、周知を行っている。法令は、直接子どもの養育・支援に関わることは少ないため、それらを具体的な取り組みに結び付けていくことは少ないと感じている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	b
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

養育・支援の質の向上のため、積極的に職員の報告を聴いている。他施設での取り組みも参考にしているが、現場のことは職員に任せていることもあり、職員にどうアプローチするか、難しい面もある。子どもたちとは積極的に関わり、誕生会や新年の集まりに参加して、園長からひと言話をする時間を設けている。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	
<input type="checkbox"/>	施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	

【コメント】

経営の改善や業務の実行性の向上に向けて、職員の意識形成の取り組みは行っているが、全体的には不足していると感じている。子どもの最善の利益を中心に置き、取り組みをすすめるようにしている。省エネルギー対策にも取り組み、園舎の改築時、屋上にソーラーシステムを設置している。また、敷地内に草花を多く植え、畑で野菜を栽培し、園内の緑化に努めている。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者評価結果	
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
<input type="checkbox"/>	必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	
<input type="checkbox"/>	養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	

<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	
<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	
(5種別共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【コメント】

これまでは園の基本理念である「共に住まう」を理解し、子どもとともに生活したい職員を確保できたが、職員の意識も様々で、福祉人材の確保には難しさを感じている。また、人材の育成も、経験を重ねる中、意識の共有を目指しているが、時間もかかり長期的な取り組みとなることから、思い通りにはいかないと感じている。自分から相談には来ない職員を中心にして、心理士も職員との面接を行い、職員の思いを汲み取るようにしている。福祉人材は、人数を確保するだけでなくスキルが必要で、現在4ホームのうち1ホームを閉鎖して、職員のスキル向上の取り組みを行っている。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	

【コメント】

結果の「評価」よりも、取り組みの過程を重視した「認識」が大切と捉えている。また、「評価」だけでは、成長、変容する人材を育成することはできないと考えている。ただし、人事考課などの評価制度は、職員の共通認識のためには、取り入れていかないと対応が難しくなるのではと考えている。職員にはそれぞれ得意な分野と不得意な分野があり、園全体で不足する部分を補い、共通認識を持てるよう取り組んでいるが、職員全体に周知できているかは疑問もある。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	

【コメント】

職員間のコミュニケーションを図るため、レク活動やおしゃべりをする会、職員の誕生祝いなどを行っているが、コロナ禍により、実施が難しくなっている。また、できるだけ職員が相談しやすいよう、窓口の設置はないが、キャリアのある職員が積極的に声かけするようにしている。職員が働きやすい職場の工夫として、これまでは職員が住み込み、断続勤務で働いていたが、2~3年前より、通いの職員も配置している。勤務体系などに不満がある時には、全体で話し合いを行っている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

園長との定期的な面接などは行っていない。職員の個々の状況を確認して、主任児童指導員や心理士、キャリアのある職員が、面談を行っている。子どもたちの成長を見守るとともに、職員自らも成長できるよう対応している。職員それぞれが、基幹的な職員、経験を積んだ職員に、いつでも相談できる態勢を整えている。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	

【コメント】

主任児童指導員を、研修担当としている。年度初めに外部研修の案内をする他、職員から参加したい研修会の希望を聞いている。コロナ禍で、昨年度より十分な派遣ができていないが、職員が年1回は外部研修に参加できるよう配慮している。園内研修は多く開催できてはいないが、園長と主任児童指導員で内容を企画して実施している。今年度は、権利擁護の読み合わせや公文式学習の充実に取り組んでいる。職員個々の専門性や技術を活かし、さらに研鑽できるよう、研修の場を大切にしている。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	

【コメント】

外部研修は、直面している問題や課題、未知の取り組みへの疑似体験など、職員の力量や必要性に合わせ、参加の機会を設けている。研修参加時の勤務シフトの変更も、子どもたちの養育・支援に支障のない範囲で、柔軟に行っている。外部研修参加後は、研修報告書を提出し、職員会議の場で内容を報告している。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	

<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	
<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	
<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

フリーの保育士を実習担当とし、実習前にオリエンテーションを行っている。実習は宿泊研修で、日誌の点検や日中の生活、行事、季節によってその時期のアクティビティへの参加、6時間ビデオ及び3時間レクチャーなどを行っている。毎年7～8校より、積極的に実習生を受け入れているが、コロナ禍で一時受け入れを中断していた。今年度7月より受け入れを再開し、実習生にはPCR検査を義務付けている。実習から就職につながるケースもある。職員には負担感もあるが、職員にとっても勉強の場、日々の支援を振り返る場になっており、今後も積極的に受け入れていく予定である。今後は実習生を専門的に指導できる職員の育成に取り組む必要があると捉えている。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果
① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	
<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	
<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	
<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の実存意義や役割を明確にするように努めている。	○
<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【コメント】

運営の透明性を確保するため、ホームページやfacebookを活用して、日頃の園の様子や活動などを公開している。公開に際しては、子どもたちのプライバシーの確保に配慮している。また、地域の青少年育成協議会の運営委員会に、主任児童指導員が参加し、園のパンフレットを配布したり、園の状況を地域に伝えている。地域の小学校の校外委員会の集りにも参加し、朝夕の子どもたちの通学の見守りを行い、地域との関係作りに努めている。ただし、事業報告や予算、決算などについては、公開していない。

② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b
<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	
<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	
<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【コメント】

法人の理事会にて、園の運営や財務の状況の確認を行っている。また、必要に応じて、顧問弁護士のアドバイスを受けている。公正かつ透明性の高い適正な経営・運営となるよう、日々努めている。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a

<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	
<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○

【コメント】

自治会主催の盆踊りや、子ども会行事には、職員が付き添い、子どもたちが積極的に参加している。自治会の行事には、園のマイクロバスを貸し出したり、運転の手伝いをしている。職員が日常的に地域の方と関わることを目指しているが、新人職員が自然に関わることができるようになるには時間もかかる。新型コロナウイルス蔓延後は計画的に開催できていないが、地域に向けてバザーを開催したり、卒園生や元職員を招いた「ひまわり会」を開催している。園には、子どもたちの学校の友だちも多く訪れている。ホームページやfacebookの担当者を決め、行事などの様子をリアルタイムで発信している。

② 24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	
<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	
<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	

【コメント】

現在はコロナ禍で受け入れを中止しているが、フリーの保育士を担当者として、ボランティアの受け入れを行っている。ボランティア希望の方には、事前に園を見学してもらい、ボランティア希望者の意図を確認しながら活動の説明を行い、受け入れを決めている。ボランティアが継続して活動できるよう、その方に合った活動を工夫し、話し合いを大切にしている。子どもたちとの遊びの支援、学習支援、園内の畑仕事、園芸活動など、10名ほどのボランティアが活動している。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

① 25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	
<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○

【コメント】

児童相談所や学校関係、病院関係など、関係機関との連携を密に行い、新しい社会資源の開発も、必要の都度行っている。子ども一人ひとりについてリストは作成していないが、職員間で内容の共有に努めている。児童相談所とは年1回連絡会を開催する他、適宜連携している。小・中学校とは、園内で連絡会を開催している。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

① 26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○

【コメント】

地域の青少年育成推進協議会に、主任児童指導員が月1回参加して、地域の課題や取り組みを共有している。推進協議会を通し、地域の活動にスタッフとして参加するとともに、園を理解してもらおう広報活動を行っている。小学生を対象とした夏まつりの運営スタッフを担い、地域のお祭りには職員がボランティアとして参加している。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	

【コメント】

地域の活動や行事に極力参加し、地域との良好な関係作りに努めている。園から積極的な働きかけはできなくても、折に触れ、地域に役立つ情報を提供している。地域には高齢の方が多く、保護したこともある。特に協定は結んでいないが、災害時の緊急避難場所となることを自治会に伝えている。また、防災無線を敷地内に建ててもらえるよう働きかけている。地域の子どもの遊び場や、地域のサロン活動に園の機能を開放できるようにしていきたいと考えている。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。

第三者
評価結果

①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	

【コメント】

年度初めに、法人の理念や基本方針、子どもを尊重した養育・支援についての研修会を、全職員を対象に開催している。研修内容は、咀嚼する時間が必要で、日々の支援の中で、考えるきっかけとなり、実践を通じて理解していく内容となっている。また、園の基本方針である「共に住まう」を実践しながら、子どもたちへの言動や支援が適切かどうか、職員全体で協議し、共通理解する場を設けている。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	

【コメント】

「ともに生きる個人」や「知られたら不利益を被ることのない取り組み」については、職員全体に浸透している。ホームの居室は、中・高生は個室で、浴室も家庭風呂で、幼児以外は基本的に個室で入浴している。子どもたちの居室に入室する際には、必ず声掛けして、プライバシーに配慮している。ただし、プライバシーが保たれる反面、個室での事故も懸念されるため、入口のドアは開けて生活してもらっている。また、お互いのプライバシーを守ることの大切さを、子どもたちに伝えている。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	

【コメント】

園のパンフレットを用意する他、ホームページやfacebookにて、最新の情報をわかりやすく提供している。見学者にも、園の特徴をわかりやすく説明し、園を選択するための情報提供としている。園の選択に関しては、児童相談所のインターク（初回面接）が重要であると認識しており、子どもが自己決定するためには、窓口を大きく広げて支援する必要があると捉えている。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	

【コメント】

園での生活については、入所前や入所時に説明している。養育・支援の内容については、本人の意向を尊重し、自立支援計画書に記載して、児童相談所と内容を共有している。措置までの状況によっては、子どもの安全に配慮し、保護者への開示は行わない場合もある。年度初めに、子どもたち自身が、ホームの目標や個人の目標を定め、ホーム内の共有スペースに目標を掲示している。意思決定が難しい子どももあり、配慮が必要と感じている。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。		

【コメント】

卒園に向けて、リービングケア（退所に向けての準備）や日々の生活の関わりの中で、金銭管理など、自立生活に向けた準備を行っている。また、卒園した子どもたちが相談に訪れた時、疎外感を感じることがないように、園舎の建て替え後も、宿泊できる専用の部屋を用意している。年1回、卒園生と退職した職員が交流できる場を設け、継続支援の体制を整えている。子どもが家庭へ戻る場合は、児童相談所と連携し、慎重かつ丁寧に協議しながら、対応している。措置延長については、成人へ向かう時期でもあり、喫煙や飲酒の課題にも対応する必要があると捉えている。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。		第三者 評価結果
①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	

【コメント】

子どもの満足度に関する調査や面接は特に行ってないが、日々の暮らしの中で、子どもたちの気持ちを汲み取るようにしている。受け止めた意向や申し出は、連絡会や職員会議で共有し、検討する仕組みを作っている。しかし、子どもが成長していく過程で、常に満足という状態を創ることがベストとは捉えていず、本人の意向を受け止めて関わっていく過程を重視するようにしている。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	

【コメント】

苦情解決責任者や苦情受付担当者、第三者委員を設置している。日々の生活の中で、子どもたちの意見に耳を傾け、連絡会や職員会議で内容を共有し、職員全体で検討している。子どもたちの声は、苦情なのか、意見なのか、問題なのか、課題なのか、判断が難しいものが多い。日々の生活の中で、子どもたちと話し合うことの方が多く、そういった機会を通して、子どもたちの悩みに耳を傾け、その都度、解決していることが多い。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

各ホームに、担当保育士と一緒に住んでおり、いつでも相談できる環境を整えている。担当保育士は女性だが、男性の児童指導員も配置し、誰にでも相談できる体制がある。相談は待つのではなく、子どもの様子を注視して、細かなサインをキャッチし、子どもが相談しやすい状況を作るようにしている。うれしかったこと、聞いてほしいことも見逃さず、傾聴している。毎日、子どもたちがその日を振り返る時間を設け、進行も当番制にして、皆が意見を述べることができるよう配慮している。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	

【コメント】

職員が「共に住まう」強みを活かし、突発的な相談に対してもタイムリーに協議し、職員全体で対応できるようにしている。子どもたちの個別の要望は、他の子どもへの影響にも配慮している。それぞれの年齢に応じて、仲間との社会性を育む支援を行っている。対応に時間を要する事柄に対しては、理由を説明している。子ども同士のトラブルについては、自分たちで解決できるよう見守り、支援している。園全体の課題に関しては、職員会議の場などで、時間をかけて検討している。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。 第三者
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	

【コメント】

リスクマネジメントに関して委員会は特に設置していないが、子どもたちが登校した後に、毎日、連絡会を開催し、日々の振り返りや、発生する課題の検討を行っている。毎週火曜日には、連絡会の後に職員会議を開催し、全体での協議や検討に時間を多くかけている。月1回のケース会議などでも、子どもたち一人ひとりの支援内容を検討している。振り返りの場においては、表面に現れない内容などについて、拾い切れていない現状があると認識している。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○

【コメント】

検温や手洗い、マスク着用などの基本的な取り組みを行う他、地域の横のつながりを活かし、感染症の発生状況をすばやくキャッチし、感染防止の取り組みに力を入れている。子どもに感染が疑われる場合には、感染拡大の防止に努め、自立支援室で静養してもらうことにしている。指導員やフリー保育士が共に寝起きし、子どもへの安心を提供するとともに、急変時の対応に備えている。また、子育て経験のある職員からの意見も聞き、感染症に対する対応に活かし、予防や感染拡大防止に努めている。「救急救命法」の研修会に毎年、職員が参加しているが、コロナ禍で最近では研修会が開催されていない。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○

【コメント】

防火管理者を定め、毎月、避難訓練を実施している。9月の防災の日には、備蓄品の入れ替えを行うとともに、子どもたち全員が防災食を試食して防災に関する意識を高めている。各ホームには、安全に避難できるルートを図で示して掲示している。学校から帰園した子どもたちの人数も、事務室で把握している。アクシデントに備え、子どもたちの下校ルートに車を出ず体制も整えている。高学年になると、部活などで帰園が遅くなり、避難訓練に参加できないことがあるため、今後の課題としている。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果	
① 40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	

【コメント】

法人の理念や意味、住み込みの特性については、職員の入職前のオリエンテーションなどで説明している。また、入職後も、年度初めに全職員を対象に再認識する場を設けている。新人職員や経験の浅い職員の場合、「子どもの発言に左右される」傾向が見られるため、今後は職員全体の課題と捉え、職員間で対応の仕方に差異が生じないよう、取り組んでいく必要があると考えている。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	

【コメント】

日々の支援内容は、毎日行う連絡会や、週1回開催する職員会議の場で、常に見直しを行いながら支援につなげている。多感な子どもたちの養育・支援については、それぞれの成長過程に合わせ、日々の課題や問題を協議する時間を多くとっているが、見直しの仕組み作りまでには至っていない。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

自立支援計画策定の責任者を置いている。年度初めに、子どもの意向や職員間の協議、児童相談所との調整を踏まえ、子ども一人ひとりの短期目標や長期目標を立てている。年度末には、再アセスメントに時間をかけ、次年度の目標につなげている。日々の養育・支援については、毎日の連絡会や週1回の職員会議で、子どもたちの課題や要望をタイムリーに検討している。支援が困難なケースについては、児童相談所と連携し、ケース会議を重ねて開催し、養育・支援の方法を協議している。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	
<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。		

【コメント】

自立支援計画の内容を変更する仕組みは整備されてはいないが、全職員が子どもたちの自立支援計画を閲覧できる環境を整えている。会議の場では、全職員が同じ情報を共有して、支援内容を見直している。ホームによっては、半年ごとに定期的に見直しを行っている。園全体では、年度末に振り返りを行い、次年度の計画に反映している。進路変更など、年度途中での変更の際には、子どもと十分に話し合い、関係者や職員間で協議している。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

2年前より、記録類のデジタル化を本格運用し、子どもたち一人ひとりの自立支援計画や、日々の養育・支援の記録を打ち込み、全職員がパソコンのタブレットでいつでも閲覧できるシステムを構築している。毎日の連絡会の場においても、全職員が情報を共有している。デジタル化に移行したことによって、情報の保護など、今後は新たな課題への対応も必要と捉えている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	

【コメント】

記録類管理の責任者を置いている。職員の入職時には、情報漏洩について誓約書を取り交わしているが、園は職場であるとともに生活の場でもあるので、パソコンでの外部との通信や、個人使用の規制をどうするかが課題となっている。

内容評価基準（25項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果	
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	

【コメント】

年度初めのオリエンテーションで、職員としてどうあるべきか、子どもの権利などについて、人権擁護の研修を行っている。また、毎日の連絡会や職員会議などで、具体例を通して権利侵害防止に関する話し合いを行っている。特に今年度は、子どもの権利に関して園全体で取り組み、児童憲章や倫理綱領などを通し、普遍的権利のあり方について学んでいる。園はキリスト教の精神の下、子どもとともに生活する中での教育を行っているが、子どもにキリスト教を強要することは行っていない。

(2) 権利について理解を促す取組		
①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	○

<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

入所時、児童相談所のケースワーカーが「子どもの権利ノート」を子どもに手渡し、内容を説明している。日常生活の中でも、子どもの年齢や理解力に応じて、「思ったことは言っていること」を、伝え方に配慮しながら説明するよう心がけている。また、「子どもみんなが大切な人、だから自分も大切にすること」を、子どもたちに伝えている。「死にたい」などの言葉が出たり、相手を傷つける言葉が出たときなどは、人の命の大切さや、生きる権利があること、自分を大切にすること、自分で考えて決めていくことなどを話し、権利について正しい知識が持てるよう支援している。

(3) 生き立ちを振り返る取組

① A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようとしている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	
<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

基本的には、子どもから自分の小さいときの話や家の話が出たときに、生き立ちの振り返りを行っている。なぜそう思ったのかなど、子どもの気持ちを聴き出し、連絡会で内容を職員間で共有し、今後どのように事実を伝えていくか、職員間で話し合いを行っている。子どもによっては、心理士と一緒に振り返りを行うケースもある。母子手帳を所持している子どもは、内容を確認しながら、振り返りを行ったりすることもある。ほとんどの子どもが、家にいたときの写真を持っていないので、園での生活の写真をアルバムにまとめている。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

① A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがつけられている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	

【コメント】

園は養護を必要としている子どもの居場所であり、生活する場所であることを踏まえ、権利擁護を基本とした支援が行われるよう、キリスト教の教えに沿いながら職員教育を行っている。職員が子どもと一緒に住み、暮らしているところから、子どもとの距離が近い。不安定、パニックになりやすい子どもに対して、不適切な関わりに陥りやすいリスクがあることについて、常に職員間で意識しながら支援を行っている。不適切な行為の防止のため、職員会議などで話し合いを常に行っている。不安定で、さまざまな問題を抱えている子どもの対応は、職員が二人体制で関わり、職員の目が届かない死角への配慮などを含め工夫している。

(5) 子どもの意向や主体性への配慮

①	A5 職員と子どもが共生の意識を持ち、生活全般について共に考え、快適な生活に向けて子ども自身が主体的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 余暇の過ごし方について、子ども自身が自由に選択し、一人ひとりの趣味や興味に合った活動が行えるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの状況に応じて、金銭の管理や計画的な使い方などを学び、金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。	○

【コメント】

各ホームには、リーダー及びサブリーダーの子どもがおり、ホーム内での生活ルールや、余暇の過ごし方など、ホーム内の生活を、子どもたちが話し合いで決めている。また、リーダー会やサブリーダー会での話し合いで、園全体の行事などを決め、自分たちでできることを考え楽しんでいる。ホーム内では、掃除当番、お風呂の掃除、ごみ出しなどがあり、子どもたちの自立につなげている。余暇時間は、子どもたちがそれぞれ、園庭でバスケットや自転車、畑の手入れなど自由に行い、遊んでいる。金銭管理については、年齢により異なっている。買いたいものなど、計画的に使っていくことができるよう支援している。日々の会話の中で、子どもの欲しいものを職員が把握して、子どもと相談しながら購入している。子どもの希望にすぐに応えられない時には、一方的に結果だけを伝えるのではなく、子どもたちに丁寧に説明している。

(6) 支援の継続性とアフターケア

①	A6 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	

【コメント】

児童相談所からの入所依頼には、事前に見学を促し、園での生活を説明している。子どもの入所が決まると歓迎会を開き、年齢の近い子どもがホーム内の生活を教え、みなと仲良くなれるよう働きかけている。年齢の低い子どもの入所の場合は、担当職員に早く慣れ、安心して生活できるよう、常に寄り添うようにしている。学校の友達が少ない子どもが多いため、学校との連携も十分に行っている。食事が不規則だった子どもに対しては、園の食事を全部食べられるよう、少しずつ食事量を増やすようにしている。

②	A7 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

小学生からは、基礎学習として公文式学習を行っている。高学年になるにつれ、自分で洗濯や掃除ができるよう支援し、中・高校生は、これからの自分の進路について、ホーム担当やケース担当と相談しながら自分の進路を考えていくよう支援している。高校受験は全員希望し、高校卒業後も進学を希望する子どもが多い。卒業後は、ケース担当やホーム担当職員が本人と連絡を取り、その後の生活の様子を把握している。何か困ったときなど、電話を掛けてくる子どもが多い。成人式には、園で着物を着せてもらい参加するなど、卒園しても園に来ることが多い。現在はコロナ禍で止めているが、例年は年1回、卒園生や退職者の交流会を開催している。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A8 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	b
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	○
【コメント】 職員は「子どもの園ガイドメチエ」を通し、学びを継続している。経験年数の差で、以前より共通理解を得にくくはなっているが、日々の連絡会や職員会議などの場で、子どもの心の中で何が起こっているのか話し合い、どう受け止めていくかを日々、共有していくようにしている。嘘をつかなければ生きてこられなかった子どもがいるが、子どもの話を傾聴し受容していくようにしている。職員全体で話し合い、内容を共有して対応している。職員は常に自己研鑽を重ね、子どもの心に寄り添って支援している。幼児はホームを変えることなく、職員と関わる時間をできるだけ多くし、愛着関係を作り、情緒の安定を図り、今何を考えているか、しっかりと受け止めて課題に対応している。		
②	A9 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	○
【コメント】 栄養士が子どもたちが満足する献立を考え、現在はコロナ禍のため、ホームごとに楽しみながら食事をしている。また、ホーム内では担当職員と子どもたちが相談して食材を購入し、おやつと一緒に作って楽しんでいる。各ホームでは、子どもたちと生活のルールを決め、洗濯などが自分たちでできるよう工夫している。部活や外出などには、その子どもの状況に合わせて柔軟に対応している。学校で育てた野菜をもらってきた時は、ホームで調理をしたりして楽しんでいる。夜目覚めたときには、旧舎の時は同室の大きい子どもが連れてきてくれていたが、現在は個室であるため、自分で職員の部屋に来て、安心感を得てから眠りにつくことがある。		
③	A10 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	○

<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	
<input type="checkbox"/> つまづきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○
<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	

【コメント】

パソコンを設置している部屋は、ドアを開放しておくという約束事がある。ドアが閉まっている場合、開けておくよう話をしたが、子どもたちは「監視されている」と、捉えてしまうことがある。何時に帰ってくるのか、どこへ行くのかなど、子どもたちを思っている声掛けも難しい場合がある。どのような言葉かけが適切か、連絡会や職員会議で話し合いを行っている。日々の生活の中では、子どもたちが自分でできたときは誉める、手伝いのときには感謝の言葉を伝えるなど、意識的に声かけを多く行っている。子どもの持っている力を信じ、能力を伸ばせるような関わりを行っている。

④	A11 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	○

【コメント】

障がい者手帳を保持している子どもが数人いる。子どもたちには、丁寧でわかりやすい言葉で、繰り返し説明している。園の生活では、子どもたちがのびのびと身体を使って遊ぶことができるよう工夫している。子どもたちは好きな部活に打ち込み、園庭のバスケットコートで遊んだり、畑で遊んだりしている。小学生には、自転車安全テストを行い、合格してから園外で自転車に乗るようにしている。子どもたちは、好きな写真やぬいぐるみを自分の部屋に飾り楽しんでいる。未来子ども財団からのボランティアの協力を得て、工作や外遊びを一緒に楽しんでいる。

⑤	A12 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	

【コメント】

職員の振る舞いや態度が、子どもたちへの模範になっているかどうか、職員で確認し合っている。社会生活の食事マナーなどの学びの場として、支援団体の支援を受け、スシローやマクドナルドなどに行き、お店でのマナーを学んでいる。日々の生活の中で、家電製品の使い方、入浴マナーなどを習得できるよう支援している。小学生には地域の方へのあいさつ、中学生は園の外で事故にあったときの対応など、具体例を通して理解を促している。健康管理に関しても、自己管理ができるよう指導しているが、季節に合わない服を着たり理解ができない子どもも多い。

(2) 食生活

①	A13 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	b
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですり食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気です、常に清潔が保たれたもて、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	○

【コメント】

コロナ禍により、食事は各ホームで摂っている。献立は栄養士が作成している。1年を通して「日本丸かじり」として、各県の郷土料理を楽しんだり、「まんがめし」として、子どもたちの好きなまんがに出てくる献立を取り入れて楽しんでいる。おやつは各ホームで子どもたちと考え、手作りや市販の食べたいものを準備して楽しんでいる。ホームの食事は皆で楽しく食べているが、入所間もない子どもは、家庭での食生活とは全く異なるため、食べたことがない食材が出たりすると、食べることが苦痛になることもある。子どものペースに合わせて、ゆっくり楽しく食べられるようにしている。体調不良時には、うどん、おかゆ、スープなど食べやすいものを提供している。

(3) 衣生活

①	A14 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	○
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	○

【コメント】

コロナ禍により、バザーを行うことができないため、その中から自分の好きな衣服を子どもたちを選んでもらうことができていないが、中・高生は、自分で好みのものを購入して、自分らしい服を楽しんでいる。衣類の購入の際には、露出度の高いものは、注意を促している。衣服の管理や枚数などは、職員が声をかけながら、適切な衣服を着たり管理できるよう支援している。季節にあった服装に関しては、職員の声かけが必要な子どもがいる。汚れたり、お風呂の後には、必ず着替えをし、清潔を保つことができるようにしている。

(4) 住生活

①	A15 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	○

発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。

【コメント】

新しい園舎になり、子どもたちのほとんどが個室利用になり、プライバシーが保たれている。旧舎のときには、同室の子どもが部屋を汚くしていると、きれいにしよう声かけをしたりしていた。個室になると、他の子どもの部屋が汚れていても声をかけないなど、子ども同士や職員との距離感に変化が出てきている。小さい子どもは、特に他の子どもと一緒に居ることを好むことが多い。高学年になると、プライバシーが保たれ、落ちついて学習ができている。掃除は専門の職員がいるが、自分の部屋は自分で掃除をする習慣が身につくようにしている。

(5) 健康と安全

①	A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	○

【コメント】

子どもたちの定期健康診断は、年2回、嘱託医に来てもらい実施している。大きな持病のある子どもはいないが、現在、精神科に定期通院している子どもがいる。内服薬は職員が管理し、食事の際に手渡し、服薬を確認し、通院の記録を残している。大量の薬をどこからか手に入れて、居室内で多量に飲んでしまう事例が過去にあったため、薬の服用には十分気を付けている。職員は県社協や神児研などの研修で、緊急時の応急手当などを学んでいる。

(6) 性に関する教育

①	A17 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者との付き合いができるよう配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	

【コメント】

「性教育」は、この世に生まれ、子孫を残して責任ある生き方をするための「生教育」であると考えている。良く生きるためには、異性を大事にし、自分を大切にしていけることが大切と考え、支援している。中学生くらいになると、相手との距離感の取り方や、相手を不快にしない付き合い、責任の持てない行動はしないなど、子どもたち一人ひとりに合った支援を提供している。女子が高学年になる頃には、大人になるための心構えや具体的指導を、担当の保育士や副園長（女性）が行っている。以前、性に関する課題が上った時には、外部講師を招いて、勉強会を開催した。性の問題はデリケートな面が多いため、子どもたち個々の状態に合わせて対応している。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A18 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	○
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけて出そうと努力している。	○

【コメント】

子どもが興奮して、暴力につながりそうな時には、他の子どもたちからまず離し、話を聴き、落ちついて考えられるよう対応している。万引きが起きた場合には、確かな情報集め、事実確認をして、本人から話ができる状態になるよう関わっている。職員が店への謝罪などを行い、児童相談所と連携を取りながら対応している。食べるものの入手のため、万引きを繰り返していたが、今ではいけないことと理解ができて、立ち直っている子どももいる。児童相談所や警察と常に連携を取りながら、改善に向けて支援している。

②	A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	○

【コメント】

新しい園舎になり、個室という環境の中で死角になる個所には、職員が常に目を向けるようにして、連絡会や職員会議で意識を共有している。現在、子ども同士の暴力やいじめなどは起こっていない。日々の生活の中で、自分のことがなかなかできない、学習力が弱い子どもに対して、馬鹿にしたり、差別をしたりすることも発生していない。特別支援学級に通う子どもにも、差別がないよう、その子どもにとって一番よい学校であることを説明している。外国籍の子どもに対しても、特別な扱いは行っていない。

(8) 心理的ケア

①	A20 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○

【コメント】

心理士は、週1回の非常勤勤務だが、以前園の職員として勤務していた経験があり、園のことをよく理解して関わっている。専用の部屋を設け、子どもに合った療法を行っている。また、子どもたちの生活に即した心理療法を行っている。ほとんどの子どもが虐待で入所してきており、心的外傷を抱え、大人を信じられない子どもが多い。どんな時も、周りから大事にされていること、どんな時も傍にいてくれることを、子どもたちが感じられるようになってほしいと職員は思っている。職員も心が疲弊してしまうことがあり、心理士に相談を受けている。また、ベテランの児童指導員がスーパーバイザーとして、職員に関わっている。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A21 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○

<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちの基礎学力を高め、学習の習慣付けのため、公文式学習を行っている。その他、自由に使用できる学習室を設けている。中・高生は、個室の自室で、夜間、落ち着いて勉強している。中学生は全員が高校受験を希望し、塾に通ったり、学習ボランティアの協力を得ている。現在、高校への進学率は100%である。障害のある子どもは、本人や児童相談所のケースワーカーと相談し、特別支援学級に通っている。障害を本人が認めない、親が認めないなどから、普通学級で学習している子どもも多いが、課題もある。

② A22 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	<input type="radio"/>

【コメント】

高校受験に際しては、卒業後どうするかを、子どもと一緒に先を見越して考えていくようにしている。高校2年の学校での3者面談の前に、園内で子どもと担当職員、児童相談所のケースワーカーで話し合い、進学するか、就職するかを決定し、今後の具体的話し合いを行っている。昨年は、卒園3名中2名が短大と専門学校、1人が就職している。今年度は、4名の卒園予定の子どもうち、3名が4年制大学、1名が専門学校の進学を希望している。奨学金の活用や住居の問題などを、子どもと一緒に話し合っている。年齢が下の在園児にとっても、よい刺激となっている。障害のある子どもには、グループホームや自立援助ホームなどの情報提供を行っている。

③ A23 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	<input type="radio"/>

【コメント】

高校生は、園の生活を大事にしつつ、アルバイトを勧め、社会経験の機会を設けている。学校や園の近くのコンビニエンスストアやフードコート、ファミリーレストラン、スーパーなどでのアルバイトで、社会のルールを体験している。特別支援学級では、実習体験がないため、子どもに合った体験ができる機会があるとよいと考えている。子どもたちの卒園後の不安は強い。卒園後に毎日のように、職員に連絡し、不安を訴えていた子どももいた。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

① A24 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	b
---	---

<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	
<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	
<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	

【コメント】

定期的な面会や、年数回の面会がある家族も少なく、家族との関係はとて薄い子どもが多い。子どもと関わりを望む保護者には、児童相談所と連携を取り、親へのアプローチをしたり、子どもの状態をよく観察するようにしている。園内には親子支援室があり、子どもと一緒に生活できる部屋を備えているが、家族との関係作りはとて難しいと感じている。保護者も子どもにどう接していいかわからない場合も多く、物を買って与えることが愛情と考える親もいるため、子どもにとって一番良い関わりについて、話し合ったりすることがある。

(11) 親子関係の再構築支援

① A25 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	

【コメント】

親に対する子どもの気持ちを聴きとったり、子どもに対する親の思いを、児童相談所を通したり、職員が確認して、親子関係の再構築に向けて、できることを考えて関わっている。親子の距離を取らなければならない場合もあり、親子関係がうまく修復でき、子どもが家庭に復帰できた例は少ない。保護者には、子どもの日々の様子などを電話で連絡している。子どもと話をしたいという保護者もいるが、児童相談所と相談しながら、直接子どもと話をする機会を作るようにしている。